

- 場所・面積** 兵庫県豊岡市、56.4ha 保護地域との重複がある場合(把握している場合) 重複部分の面積44.4ha
- 管理目的** コウノトリ（環境省RL 絶滅危惧IA類、特別天然記念物）をシンボルとして、多様な生物の生息環境の保全を図るとともに、隣接する山塊（大市山）の保全及び活用を図る。
- サイト概要** 兵庫県豊岡市加陽に位置する農地、隣接する山塊及び市が整備した水辺公園で構成される。山裾に整備された市立加陽水辺公園は、湿地保全活動や自然体験活動の拠点施設となっている。公園内には池やビオトープ等の湿地環境が整備され、維持管理されている。
- 水田および湿地にはコウノトリが飛来し、重要な生息環境として機能している。また、湿地周辺には環境省RL準絶滅危惧種フジバカマをはじめとする希少な植物が生育する等、生物多様性に富んでいる。山塊からは湧水が水田や湿地に流れ込み、水辺環境の維持に欠かせない要素となっている。



土地利用の変遷

耕作地エリア（農地）は、かつては湿田であったが昭和50年代に土地改良整備され、現在のような耕作に適した土地となった。山地エリアは、地域のシンボルとなっている大市山の一部であり、山内には神社（中山神社）や城址や古墳や墳墓が点在している。また麓近くには、元々棚田であった部分や植林地の部分がある。公園エリアは、2017年に整備された市立加陽水辺公園の敷地であり、園内には自然体験活動等の拠点施設となる交流館や湿地、山内へ入るための遊歩道等が設置されている。

サイト周辺の環境

本サイトは円山川と出石川の合流部分の南側に位置し、ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」に挟まれた場所となっており、サイトから東側に約1kmの位置にコウノトリが人工巣塔に営巣し、繁殖している。また、本サイトの東側及び南側も同様に、標高の低い部分は水田地帯が広がっており、高標高部分にはコナラ林と植林地が分布している。

アピールポイント

加陽地域は沖加陽地区と下加陽地区に分かれ、両区の住民で組織される「加陽地区づくり委員会」が中心となって、地区の環境整備をする役割を担っており、地域のより良い自然環境の保全を目指している。また、山地エリアでは「豊岡里地里山・人・未来協議会※」が自然体験活動やイベントを多数行うほか、「森のようちえん」の活動を定期的に行っている。以上のように当サイトは、地域住民、民間事業者、行政の3者が連携して、地域の多様な自然環境を一体的に保全するサイトである。※豊岡市が公募型プロポーザルにて選定した民間事業者「労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団」（労働者協同組合法の成立により、2023年4月に「NPO法人ワーカーズコープ」から名称変更）とともに加陽水辺公園を中心としたエリアの自然環境の利活用事業を行う協議会

生物多様性の価値

価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

- ①環境省 重要里地里山「豊岡盆地・円山川・六方川・田結川」
- ② " 重要湿地「円山川下流域および周辺水田」

【選定理由や内容】

各制度の選定理由については下記の通り。

①重要里地里山「豊岡盆地・円山川・六方川・田結川」

豊岡盆地を流れる円山川を中心に、コウノトリの野生復帰に取り組む地域一帯が対象である。水田が広がる豊かな穀倉地帯には、河川（円山川・六方川・田結川）や人工湿地（ビオトープなど）、河畔林、里山など多様な土地利用形態が見られ、多様な動植物の生息空間が成立している。魚道や落水時の生き物の逃げ場等を設けたり、早期・冬期湛水を行うなどコウノトリを頂点に様々な生き物の命を育む環境創造型農業「コウノトリ育む農法」に積極的に取り組んでおり、水田を含む地域一帯が、コウノトリの重要な生息地となっている。

②重要湿地「円山川下流域および周辺水田」

円山川下流域や周辺の水田及び人工湿地には、湿地に生育するヨシ群落や貴重な種の生育地が広がっており、「基準2」により重要湿地500に選定されている。



写真の撮影年月：2017年5月

写真の説明：ラムサール条約湿地（加陽湿地）に隣接する大市山



写真の撮影年月：2023年2月

写真の説明：冬の田んぼで餌を探すコウノトリ

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

- ・ 里山や水田、畑等からなるモザイク的な環境が形成されている。
- ・ 農地の中では水田の割合が大きく、「コウノトリ育む農法」を始めとする環境創造型農業を採用している水田がある。
- ・ サイト周辺には河川や大規模な湿地があり、生態系のネットワークを繋ぐために重要な場所でもある。

【主な植生】

- 耕作地エリア：水田雑草群落、畑雑草群落
- 山地エリア：コナラ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林

【確認された主な動植物】

- 耕作地エリア
 - ・ コウノトリ（学名：*Ciconia boyciana*、成鳥・幼鳥、環境省RL絶滅危惧ⅠA類、国内希少野生動植物種、国指定特別天然記念物）



写真の撮影年月：2021年11月

写真の説明：山地エリア（大市山）での森林整備



写真の撮影年月：2017年5月

写真の説明：耕作地エリアに広がる水田

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

農地や里山等から成るモザイク的な環境が形成されている。耕作地と里山の間には「市立加陽水辺公園」が配置され、里山や湿地で行う自然体験活動等の拠点となっている。

■耕作地エリア

地区住民で組織された農会が中心となり、住民によってさまざまな農産物（米、野菜、果物等）が作られている。

■公園エリア

交流館や湿地、遊歩道が整備され、定期的に維持管理がなされており、自然体験活動の拠点として機能している。

■山地エリア

広葉樹及び針葉樹が生育することで気候調整、水量調整、土壌浸食の抑制に寄与している。その他、自然体験イベントや「森のようちえん」の活動が定期的に行われる等、レクリエーションや環境教育の場としても活用されている。

【主な植生】

■耕作地エリア：水田雑草群落、畑雑草群落

■山林エリア：コナラ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林

【確認された主な動植物】

■耕作地エリア

・コウノトリ（学名：*Ciconia boyciana*、成鳥・幼鳥、環境省RL絶滅危惧ⅠA類、国内希少野生動植物種、国指定特別天然記念物）



写真の撮影年月：2022年12月

写真の説明：山地エリアでの「森のようちえん」の活動



写真の撮影年月：2022年1月

写真の説明：田んぼで採餌するコウノトリ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

耕作地エリアの水田では、コウノトリが飛来して採餌、休息する姿が頻繁に確認されている。

公園内のビオトープや池の周辺等では、フジバカマなどの希少な植物が生育している。

【確認された希少種】

■耕作地エリア

- ・コウノトリ（学名：*Ciconia boyciana*、成鳥・幼鳥、環境省RL絶滅危惧ⅠA類、国内希少野生動植物種、国指定特別天然記念物）

■公園エリア

- ・フジバカマ（学名：*Eupatorium japonicum*、環境省RL準絶滅危惧、円山川水域からのリスク分散のために移植された個体）



写真の撮影年月：2020年10月

写真の説明：フジバカマとアサギマダラ

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

地元地区の農家や住民が、水田や畑で耕作しており、農の活動の実践によって、コウノトリの生息を支える多様な生きものが育まれている。

【対象となる動物種】

- ・コウノトリ（学名：*Ciconia boyciana*、成鳥・幼鳥、環境省RL絶滅危惧ⅠA類、国内希少野生動植物種、国指定特別天然記念物）

【動物が利用している生活史】

- ・水田をはじめとする農地では、採餌、休息している姿が見られる。
- ・サイトと隣接するラムサール登録エリア内にある伊豆の人工巣塔で繁殖しているコウノトリのペアが、サイト内に飛来し、採餌・休息していることが確認されている。雛を育てる時期（5～7月頃）には大量の餌が必要となるが、サイト内の水田が重要な餌場として機能しており、コウノトリの繁殖・育雛を支えている。



写真の撮影年月：2021年7月

写真の説明：水田にたたずむコウノトリ



写真の撮影年月：2022年2月

写真の説明：冬期の湛水田で採餌するコウノトリ

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

本サイトは、ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」と隣接しており、山地～水田・湿地帯～河川の連続性を高め、コウノトリをはじめとする生きものの生息を支える重要な場所である。

【主な植生】

- 耕作地エリア：水田雑草群落、畑雑草群落
- 山地エリア：コナラ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林

【隣接・接続する保護地域等】

- ・ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

- ・多様な生態系ネットワークの連続性を高めるための場所として重要である。
- ・サイトと隣接するラムサール登録エリア内にある伊豆の人工巣塔で繁殖しているコウノトリのペアが、サイト内に飛来し、採餌・休息していることが確認されている。



写真の撮影年月：2017年5月

写真の説明：ラムサール条約湿地（加陽湿地）に隣接する大市山



写真の撮影年月：2022年12月

写真の説明：近隣で繁殖するペアをはじめ多くのコウノトリが飛来

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>A.耕作地エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の農会長が主となり、地域が一体となって農の活動を実施することで、二次的自然を好む生物にとって良好な環境を維持する。 ・一部の水田は、「コウノトリ育む農法」をはじめとする環境創造型農業に取り組むことで、コウノトリにとって特に良好な採餌場として機能させる。 <p>B.公園エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流館、湿地、遊歩道等を定期的に適切に維持管理する。 <p>C.山地エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『森林・山村多面的機能発揮対策交付金』等を活用しつつ、水源涵養機能と生物多様性を高めるとともに、自然体験活動や環境教育イベントのフィールドとして利用できるよう、主に竹の間伐をはじめとする整備を行うことによって明るい山林を維持する。 	<p>【モニタリング対象】</p> <p>A-① 畦、水路、取水口、排水口 A-② 水生昆虫、トンボ類、カエル類 B フジバカマ等の希少な植物 C 竹林</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>A-①、② 水田 B 湿地及びその周辺 C 竹林</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>A-① 畦や水路、取水口、排水口の状態を確認 A-② 目視確認、またはタモ網等を使って採捕 B 個体数の計測 C 整備状況を巡視等により確認</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>A-① 随時 A-② 4～10月に事業に合わせて複数回 B 対象種の開花時期（2種ともに秋季） C 毎年度末</p> <p>【実施体制】</p> <p>A 地元地区 B 豊岡市 C 豊岡里地里山・人・未来協議会 ※適宜、3者で連携してモニタリングを実施。</p>